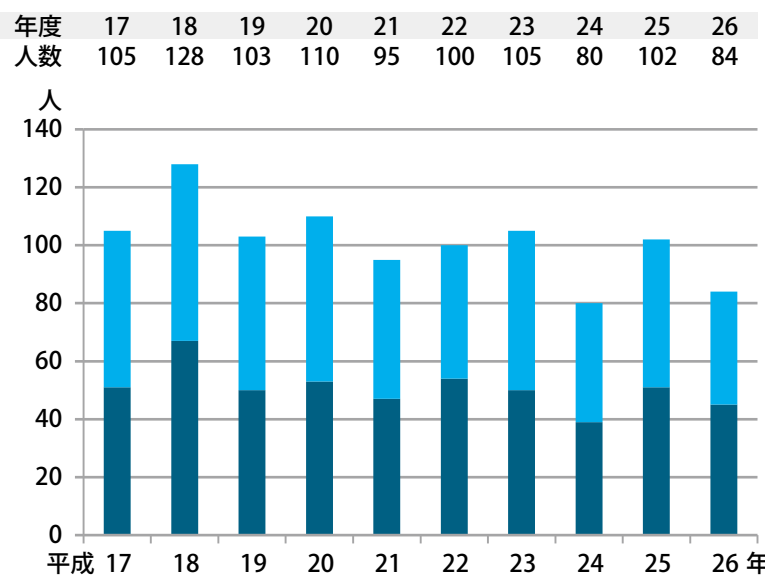


**26年度の  
出生数  
84人**

**出生数の推移**



こと、保育所の充実、教育費の負担軽減などが必要。農業では、価格補償や所得補償も重要。

**【西山】**未婚者の解消が急務。子育て環境の整備により出生への意欲増勢、結婚し、子どもを産

んで、家を守る、ふるさとを守る意気が必要。郷土を知り活動や、魅力あるまちづくりをしなければならない。

**【遠藤】**西部地域は介護サービスの余力がある。24時間体制で医療の対応もできる高齢者向けマ

ンションなど、一定以上の資産がある人を対象にした施設ができれば雇用も増える。

**【吉原】**米子市への転出が多い。結婚して転出した若い夫婦が、本町に戻って子育てしやすいよう、3世代住宅への補助を考えたい。また、災害が少なく、健康寿命が長い町を売りたい。



**【近藤】**ここ3年間の出生数は年間約90人で、このままさらに減れば3中学校の統合も避けられない。町を維持するために必要な出生数の目標を定め、施策を講じなければならない。

**【圓岡】**近年、若者の低所得化が急速に進んでおり、所得が低い男性ほど未婚率が高い。国会で審議中の「派遣法」改正案が通れば不安定な雇用環境が拡大し、若者は子育てどころで



なくなる。

**【加藤】**旧町のカベ、集落間のカベを超えたコミュニティづくりが大事。大山未来会議、地域自主組織の取り組みを生かし、若者定住対策につなげなければならない。空き家の利活用も必要。



**【大原】**団塊ジュニアの出産適齢期が終わる前に、第3子以降の出産を促すように、旧大山町でやっていた祝い金を復活してもらいたい。また、集落維持のため、2世帯住宅の新築に助成してほしい。

**【岩井】**子どもを持つ持たないは女性の権利。女性を大切にする施策が大事だ。家庭でも地域でも町でも、女性を大切にすれば、結婚も増え、人口も増える。



**【米本】**町内に住む所がなければ若者は定住しない。就職や結婚による米子市への転出を防ぐため、町内に若者用の住宅を整備すべき。インター付近にコンパクトシティを整備したい。



**【岡田】**若者の出合いの場を作って結婚する人を増やす必要がある。子育てしやすい町をめざし、あらゆるサポートをするべき。移住定住の促進のため、大山インター近くに宅地整備があってもいい。



**【米本】**町内に住む所がなければ若者は定住しない。就職や結婚による米子市への転出を防ぐため、町内に若者用の住宅を整備すべき。インター付近にコンパクトシティを整備したい。



**【米本】**町内に住む所がなければ若者は定住しない。就職や結婚による米子市への転出を防ぐため、町内に若者用の住宅を整備すべき。インター付近にコンパクトシティを整備したい。



**【岡田】**若者の出合いの場を作って結婚する人を増やす必要がある。子育てしやすい町をめざし、あらゆるサポートをするべき。移住定住の促進のため、大山インター近くに宅地整備があってもいい。

大山町議会は、議論、討論といった議員間の話し合いを大切にしています。「討論会」としてはまだまだ不十分ですが、今後も引き続き改善していきま

す。ご意見・ご感想をお待ちしています。